

創業100年余、菓子製造販売「株松風屋」



親切・丁寧・明るさと「おもてなしの心」を心がけて接客する佐々木社長と幸子夫人。
常連のお客さんとの会話も弾む（注・撮影時マスクを外す）=七日町の店舗

素材を厳選 丹念な仕上げ

お菓子には人々の笑顔を咲かせ、心を和ませ、会話を円滑にする不思議な力があります。お買い上げいただいたお客様が、そのお菓子で友人や家族を「おもてなし」していただくことが当店の願いであり、幸せです。山形市七日町で菓子製造・販売を営む老舗株松風屋の佐々木啓仁代表取締役社長を訪問し、店の歴史、菓子作りにかける思いなどを尋ねた。

— 山形市の寺町界隈に向かう通りに店を構えて、昨年100周年を迎えました。

佐々木社長 大正10年（1921）10月に祖父佐々木市郎が、山形市内の和菓子屋で修業を積み、独立し開業しました。松尾芭蕉を敬愛しており、店名の「松風屋」は、芭蕉の俳風である「蕉風」にあやかり名付けました。腕の良い職人で芭蕉ゆかりの菓子を作り続けていました。昭和25年（1950）に山形新聞社が主催した山形観光百選の名産菓子部門で「奥の細道 芭蕉最中」は県1位に選ばれました。市郎は昭和45

年6月に亡くなりますが「雲の峰」「樹水の峰」といった銘菓を考案し、昭和22年8月、昭和天皇・皇后両陛下が民情視察のため来県されたときには「雲の峰」を献上する栄誉に預かっていきます。

二代目の父幸一郎は大正13年に生まれ、山形市立商業学校を卒業し、日本統治時代の京城（現・ソウル市）に日本の特殊銀行として設立された朝鮮銀行（昭和20年閉鎖）に就職し、同銀行の支店がある大連に渡りました。そこで応召され、敗戦後シベリアに抑留され、昭和23年10月に帰国し後を継ぎます。

私は大学卒業後、全国の菓子屋の子弟が集まる日本菓子専門学校（東京・世田谷区）で1年間、東京・麻布にあった老舗和菓子店「和泉家」で4年間、和菓子作りの基本と販売を学び、昭和52年6月に帰郷し株式会社となった松風屋に入社し、平成4年（1992）に代表取締役社長となり現在に至っています。

— 素材の厳選と職人の丹念な仕上げを心がけています。



芭蕉最中



生チョコ大福



ほろほろ



プレミアムアップルパイ



生パイ



昔なつかしあんどーなつ



昭和30年代の松風屋店舗。中央のスクーターに乗っているのはプロレスラーの故遠藤幸吉氏。生家は宮町で雑穀を扱っている商店で帰郷の際は店に訪れていた。前列左から2人目が祖母とみさんに抱かれた佐々木社長。2列目左端に初代市郎氏。

(株)松風屋

代表取締役社長 佐々木啓仁
専務取締役 齊藤 友資
〒990-0042 山形市七日町4-3-11
☎023・631・3012 Fax023・631・3013

佐々木社長 和菓子の命とも言える「餡」は、北海道産の高級小豆を原料に、こし餡・つぶ餡はもちろん、白餡についても大手亡、白小豆などの厳選素材を使用しております。卵は山形県産の豊かな自然の中で美味しい水とこだわりの飼料で育った新鮮なものを、小麦粉や砂糖、バターは、それぞれの菓子に最適なものを職人が吟味して使用しています。

職人は、20代から60代まで和菓子・洋菓子の技術を常に探求し、熟練の技で当社の菓子を毎日一つひとつ手作りで製造しております。素材の良さを生かしながら、四季の彩りを感じ、職人の技術や発想を組み合わせ、その日の気温や湿度などの条件を加味しながら、手間と時間を惜しまず丹念に仕上げています。

— 新型コロナウイルスの影響が憂慮されます。

佐々木社長 当社の売上の多くは仏事用の引菓子の販売です。コロナ禍により葬儀のスタイルが一般葬から家族葬へとシフトしたことが影響し、一時はコロナ禍前の3割減といった状況でした。今年に入ってから徐々にホテルや料亭での法事が行われるようになり、引き物の注文が寄せられるようになりました。また、年4回開催している菓子まつりといった催事や、5月に入ってから

天童市、寒河江市の道の駅などでの売上が好調に推移しており、コロナ禍前の業績に回復しつつあります。

— 「不易流行」という言葉を大切にしています。

佐々木社長 芭蕉が奥の細道の旅の途中に見出した俳諧の理念として知られています。いつまでも変わらない本質的なものを忘れない中にも、新しい変化を取り入れていくという事です。当社はこの言葉を経営理念とし、昔からの伝統を守りつつ、時代の流れや新しい変化を取り入れ、常により良い菓子を求め続けていきたいと思っています。

戦時中は経済統制で菓子を作る事ができず、初代市郎の妻とみが発結いや古着を扱って支えてきました。現在、私が監事を務めている山形県菓子工業組合の会員は144名です。私どもの業界に限ったことではありませんが、ウクライナ情勢や円安の影響で砂糖、小豆、バターやマーガリンといった油脂類に加えて、紙などの包材や電気料金や灯油がアップし、これまで経験したことのない状況が続いています。しかし、困難な時代を乗り越えてきた先人の歩みを励みとし、業界の発展にも微力ではありますが、力を尽していきたいと思っています。